



TICAD7 パートナー事業

アフリカと日本のユース提言

Africa-Japan Youth Alliance for SDGs Ideas for Global Change

報告書

令和元年 9 月

一般社団法人アフリカ開発協会

〒102-0094 千代田区紀尾井町 4 番 1 号 新紀尾井町ビル 3 階

Tel.03-3511-8911 Fax.03-3511-8922 URL: www.afreco.jp

■はじめに

TICAD6の際に、アフリカと日本の学生の交流会を開催した。ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学で、10人の日本の学生と16人のアフリカの学生がSDGsをテーマに日本とアフリカの協働の可能性や自身のアイデアによるSDGs解決策の提案を行った。これに引き続き、TICAD7でも学生の交流を促そうと企画されたのが、当該企画である。

■企画目的

アフリカと日本の若者が相互理解を高めるため、そして未来に向かって一緒に課題解決に取り組めるように、若者の声を聞く場を提出する。また、日本の若者のアフリカへの興味を促進する。

■企画内容

アフリカと日本、SDGs達成のためにはそれぞれ異なる課題を抱えている。日本の技術や知見を用いてアフリカの課題に取り組む、あるいはアフリカでおきているイノベーションや工夫を用いて日本の課題に取り組む、そのような自由でユニークな若者からの提言やビジネスアイデアを募集した。若い世代がお互いから学ぶことでイノベーションが生まれ、新しいパートナーシップが生まれると考え、若者らしい視点と実効性のあるアイデアを求めた。

■応募資格

日本またはアフリカ出身者で、日本国内に在学中の高校生、大学生、大学院生、または30歳以下の社会人。

■審査基準

- ・「新規性」「SDGsへのアプローチ」「ユニークさ」などの視点から総合的に審査し、アイデアの実現性等も含めて評価。
- ・言語や発表のアピール力、アイデアの企画力、内容を考慮して評価。

■広報

広報は毎日新聞を中心に行われ以下の通り紙面掲載があった。またデジタル毎日にも頻繁に掲載され、URL、フェイスブックでも告知が行われた。（添付記事コピー参照）

2019年5月18日（土）	都内版	募集
2019年6月2日（日）	大阪版	募集
2019年6月8日（土）	京都版	募集
2019年8月12日（月・祝）	都内版	本選会告知
2019年8月28日（水）	都内版	本選会結果
	横浜版	本選会結果
2019年8月31日（土）	秋田版	本選会結果

広告については、同じく毎日新聞に7月14日、8月1日、10日、17日、22日に掲載された。

■実施スケジュール・内容

- ・2019年4月19日（金） 応募開始
- ・2019年6月17日（月） 応募締め切り、第一次書類選考
- ・2019年7月5日（金） Emailにて選考結果通知
- ・2019年7月13日（土） 第二次オンライン・プレゼンテーション選考
- ・2019年7月22日（月） Emailにて選考結果通知
- ・2019年8月26日（月） 本選

第一次書類選考

日本人20人、アフリカ出身者30人が応募。一般財団法人あしなが育英会 一般社団法人アフリカ開発協会、毎日新聞社の3団体で審査。日本人12人、アフリカ出身者12人を第二次オンライン・プレゼンテーションに進出させた。

第二次オンライン・プレゼンテーション選考

毎日新聞社内、準備時間も入れて約7時間、2部屋に分かれ審査。一般財団法人あしなが育英会（鳥居氏、マゲンダ氏） 一般社団法人アフリカ開発協会（名井氏、渡邊氏）、毎日新聞社（七井氏、藤原氏）の3団体で、日本人3人、アフリカ出身者3人に絞る。

本選（添付チラシ参照）

早稲田大学3号館301教室で開催。集客数は200人。パネル・ディスカッションとプレゼンテーションについては、同時通訳をつけた。

<主催者挨拶>

一般財団法人あしなが育英会 藤村修副会長
一般社団法人アフリカ開発協会 矢野哲朗会長

<パネル・ディスカッション>

日本とアフリカを繋ぐビジネスを展開しているパネリストによる「日本×アフリカ：アイデアをかたちに」というディスカッション。パネリストはDMMアフリカのパトリック・ベフマ氏、リッチー・エブリデイの仲本千津氏、ビットペサ社CEOのエリザベス・ロッシエロ氏。司会は早稲田大学 大門毅教授。



<プレゼンテーション> (添付プレゼン資料参照)

各ファイナリストが 10 分のプレゼンテーション、その後 5 分間の質疑応答を行った。

1. アマドゥ・アリ・ナビ (ギニア出身 文部科学省の奨学金で北海道大学に留学中)
「アフリカの食糧問題解決のための高タンパクフードとしての浮草の活用」
2. イブフレディ・アベメブオト (カメルーン出身 ABE イニシアティブで神戸情報大学院大学に留学中)



- 「ICT を活用したマラリア予防」
3. 休場 優希 (横浜市立大学)
「日本で不要になったベビー服にリメイクした布ナプキン」
4. 片岡 剛輝 (立命館アジア太平洋大学)
「アフリカのエンジニアと日本企業を結び付けるアイデア」
5. 村上 采 (慶応義塾大学)
「世界一愛が詰まったお洋服」

6. エマニュエル・マセルカ (ウガンダ出身 あしなが基金で国際教養大学に留学中)
「「ゴミ・エコノミー」モデルの導入による廃棄物処理の新たな方法」

<特別メッセージ>

ガンビア大学副学長モモドゥ・ジェン教授による若者へのメッセージ。ガンビア大学を創ってきた経緯と経験から、よりよい未来を創るために大学が存在すること、そしてそこで学ぶ学生こそが社会のために革新と変革をおこすことができるのだと訴えかけ、日本とアフリカの絆を益々強くするよう努力してほしいと話した。



<審査>

審査員長古市信道氏と 3 人の審査員 (ディック・オランゴ氏、エリザベス・ロッシエロ氏、坂之上洋子氏) による審査の結果、日本人は女子の就学率向上のためのアイデアを発表した休場優希さん、アフリカ出身者はゴミ分別システムを提案したエマニュエル・マセルカ氏が最優秀賞に選ばれた。また特別に用意された日本気象協会賞もマセルカ氏の手に渡った。

副賞として、最優秀賞の 2 人にはカタール航空の往復航空チケットなどが送られた。

■おわりに

夏休み中にもかかわらず沢山の人が本選を見に来てくださったことが、このような企画が求められている証とも思えるが、応募総数がもう少し多くてもいいのではないかと考えている。この点では課題が残り、次回同じような機会が得られれば告知をもっと早くから行うべ

きであるし、また多くの大学から学生へ呼びかけてもらえるよう準備する必要がある。オンライン・プレゼンテーションについては、大きなトラブルはなかったものの、技術的に細かいところで手がかり、プレゼン資料と画像の切り替えでトラブルがみられたケースもあった。今後の課題である。

主催： 一般財団法人あしなが育英会 一般社団法人アフリカ開発協会
共催： 独立行政法人国際協力機構
後援： 一般財団法人日本国際協力センター 国連広報センター
早稲田大学国際戦略研究所 創価大学 MOTTAINAI キャンペーン事務局
協力： 毎日新聞社
協賛： IKEUCHI ORGANIC エバニュー カタール航空 スーパーホテル
道祖神 ミヤザワ 山田繊維